

京都市思春期に関する意識調査

【結果報告書】

（概要版）

平成21年6月

京 都 市

I 調査の概要

1 調査の目的

京都市では、平成 17 年 1 月に策定した子育て支援施策の総合計画である新「京（みやこ）・子どもいきいきプラン」※¹（以下「現行プラン」といいます。）に基づき、市民・地域ぐるみで子育てを支え合う子育て支援の風土づくりを進めてきましたが、現行プランの計画期間が平成 21 年度までとなっていることから、これを見直し、平成 22 年度から平成 26 年度までの 5 年間を計画期間とする新たな計画※²を策定することとしています。

現行プランに一体として盛り込んでいる「母子保健計画」は 21 世紀の母子保健の主要な取組を提示した国ビジョンである「健やか親子 21」の趣旨を踏まえ、地域の母子の健康や生活環境の向上を図るための体制の確立に向けた計画であり、本調査は、思春期の子どもたちの健康と生活、性や心の問題についての意識や実態等を把握し、次期プランに盛り込む新たな「母子保健計画」を策定するための基礎資料として活用する目的で実施しました。

※ 1 次世代育成支援対策推進法に規定される市町村行動計画の前期計画（計画期間：平成 17～21 年度）に位置付けるものです。

※ 2 次世代育成支援対策推進法に規定される市町村行動計画の後期計画（計画期間：平成 22～26 年度）に位置付けるものです

2 調査概要

- ・ 調査地域 : 京都市全域
- ・ 調査対象者 : 平成 20 年 10 月 1 日現在、13 歳以上 19 歳以下の市民のうち住民基本台帳及び外国人登録者から無作為抽出した 5,000 人
- ・ 調査期間 : 平成 20 年 10 月 16 日から 10 月 28 日まで
- ・ 調査方法 : 郵送配布・郵送回収（無記名回答）

	調査票配布数	有効サンプル数	回収率
思春期に関する意識調査	5,000	1,061	21.2%
(参考) 平成 16 年調査	5,001	1,167	23.3%

3 報告書の見方

- 回答はすべて平成 20 年 10 月 1 日時点の状況に基づいています。
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていないものです。

Ⅱ 調査結果の概要

目 次

I 調査の概要

1	調査の目的	1
2	調査概要	
3	報告書の見方	

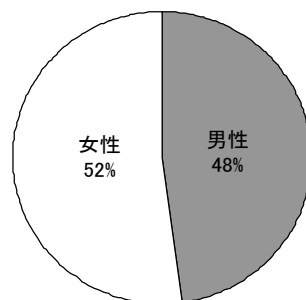
II 調査結果の概要

1	回答者の基本属性	3
2	体格について	5
3	ふだんの生活について	7
4	家族との関係について	8
5	悩みや心の状態について	9
6	小さな子どもとふれ合う機会について	12
7	喫煙や飲酒について	13
8	食について	17
9	規制薬物について	18
10	性に関わることについて	19

1 回答者の基本属性

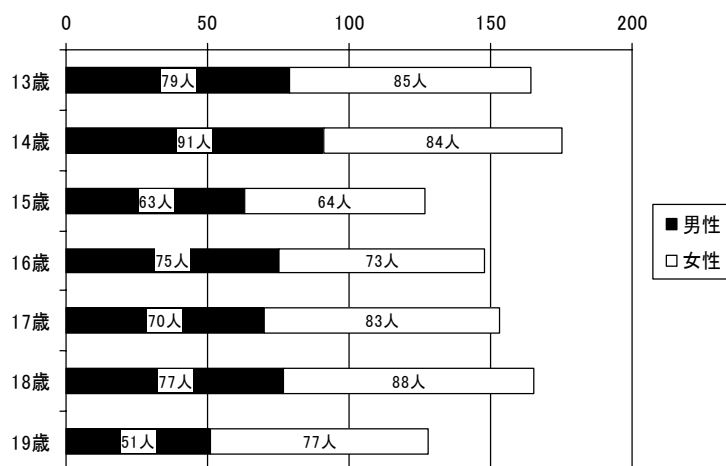
(1) 性別

- ・回答者の性別は男女ほぼ半々である。



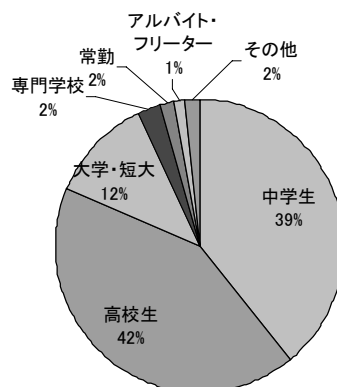
(2) 年齢

- ・13歳～19歳まで，各年齢127人から175人である。



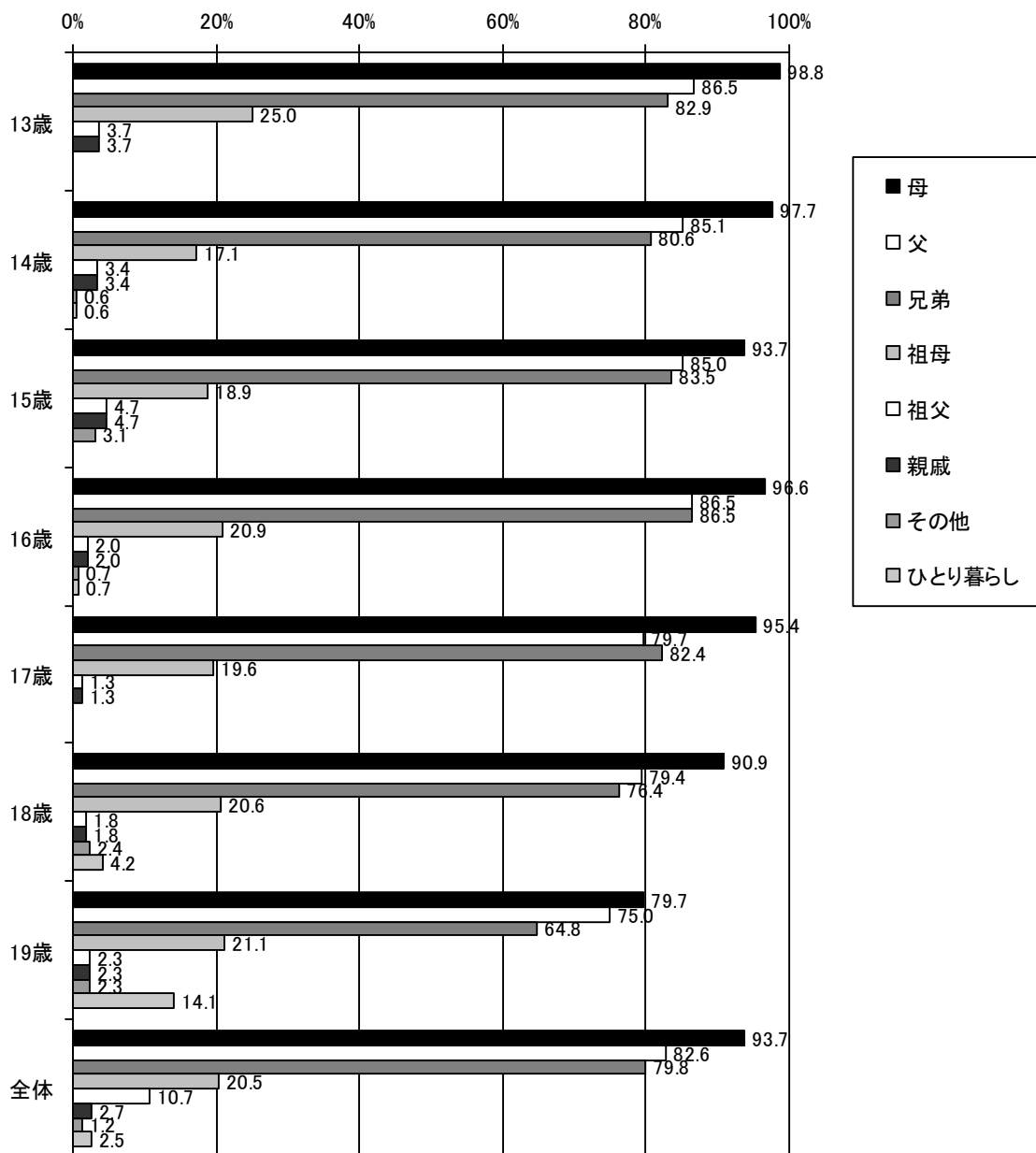
(3) 学校・職業

- ・学生が90%以上を占め，中学生・高校生はそれぞれ約40%である。



(4) 同居家族

・93.7%が母，82.6%が父，79.8%が兄弟，20.5%が祖母，10.7%が祖父と同居している。一人暮らしは18歳から増加し，19歳では14.1%である。



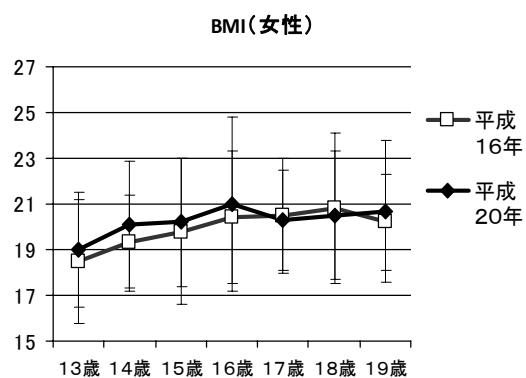
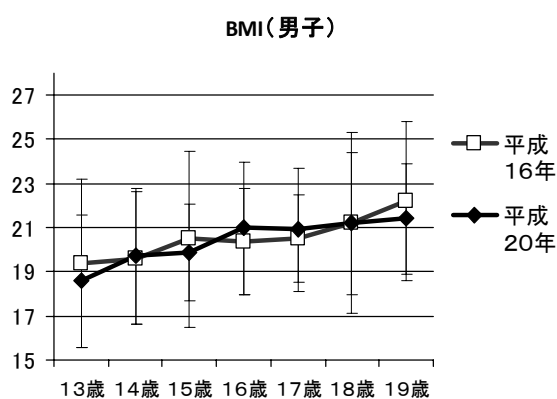
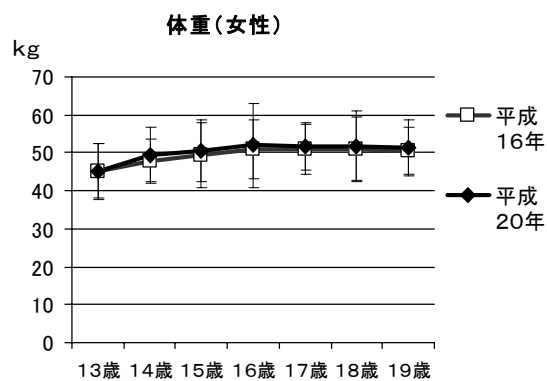
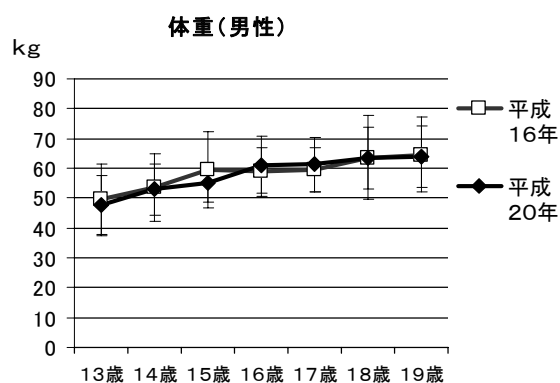
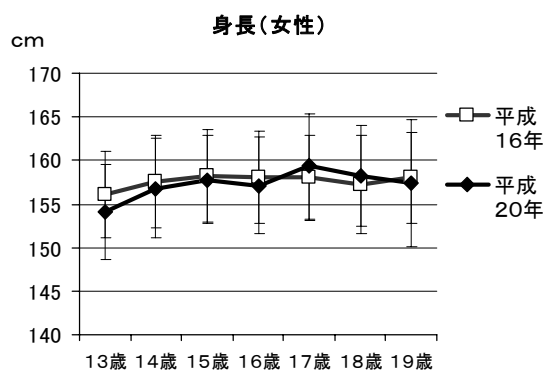
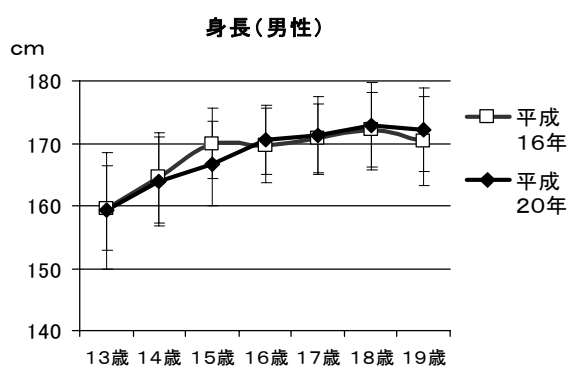
2 体格について

(1) 身長・体重・BMI

体格指数（BMI＝18.5未満…やせ 18.5以上25.0未満…普通 25.0以上…肥満）

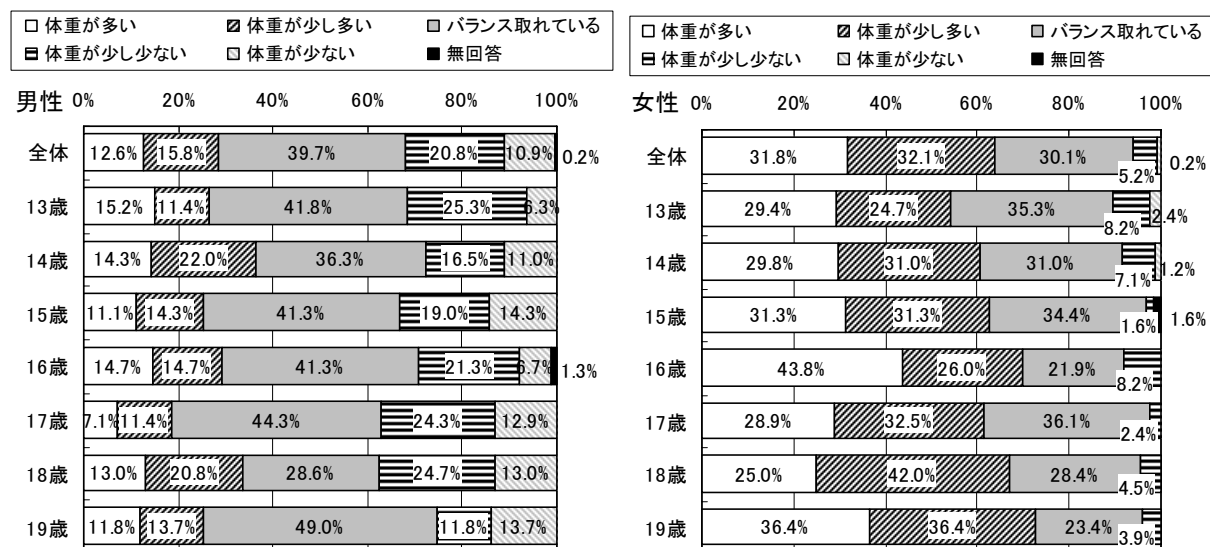
* BMI 算出方法＝体重（kg）÷身長（m）÷身長（m）

・平成16年調査と比較して、13歳～19歳まで明らかな差は認めない。



(2) 自己評価

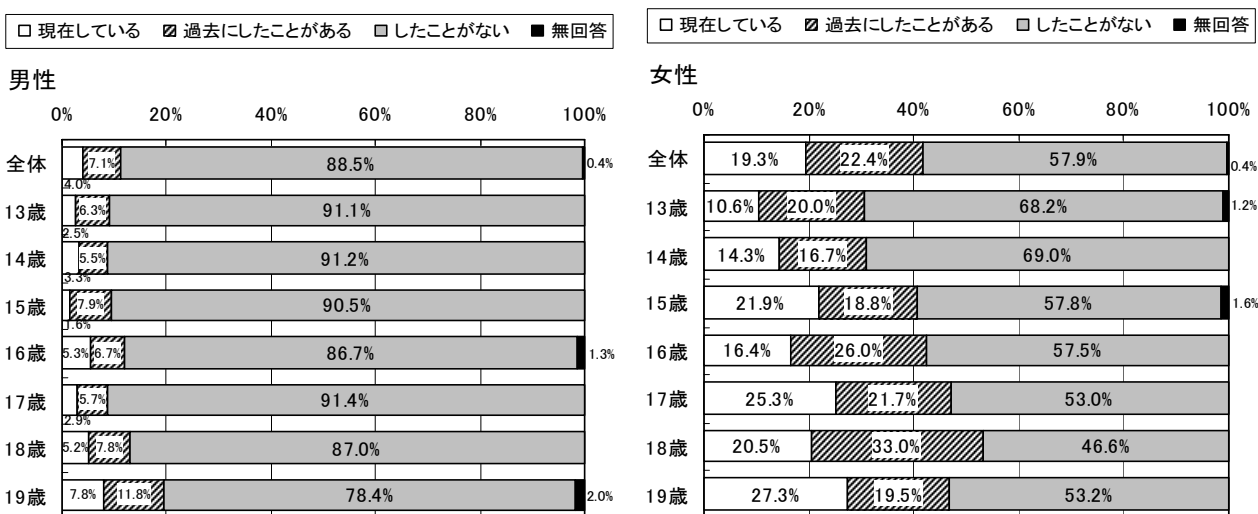
- ・女性の60%以上が、「体重が多い」または「体重が少し多い」と思っている。



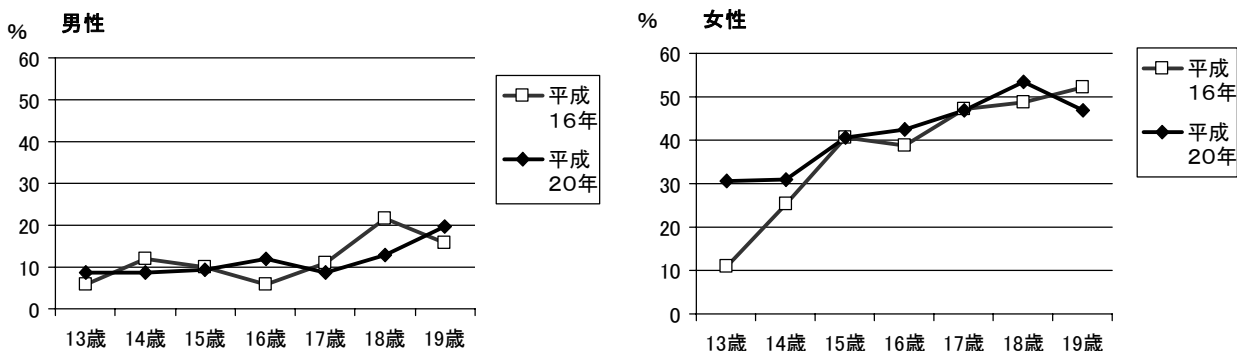
(3) ダイエット

① ダイエット経験

- ・女性に多く、年齢が高くなるにつれて増加している。



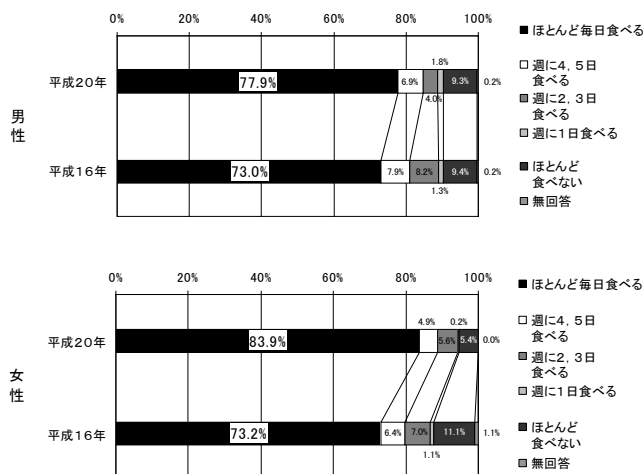
- ・平成16年調査と比較して、女性13,14歳のダイエット経験率が増加している。



3 ふだんの生活について

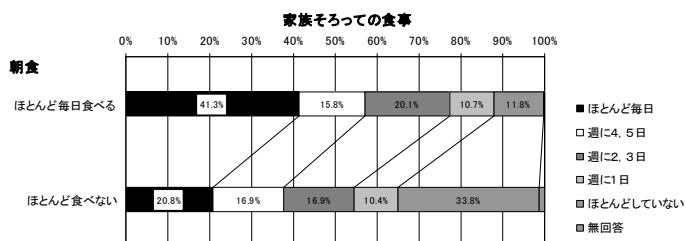
(1) 朝食の摂取状況

- ・男性の77.9%, 女性の83.9%が「ほとんど毎日食べる」と答えており, 平成16年調査の男性73.0%, 女性73.2%に比べて増加している。
- ・男女共に年齢が高くなるにつれて, 「ほとんど毎日食べる」が減少し, 「ほとんど食べない」が増加する。



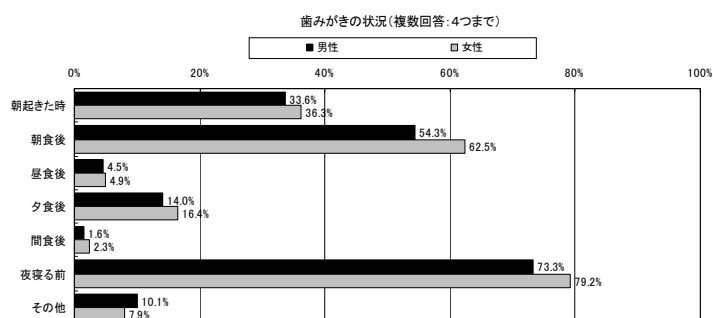
(2) 朝食の摂取と家族そろっての食事状況

- ・朝食を「ほとんど毎日食べる」群で, 家族そろっての食事をほとんど毎日している割合が高い。(「家族そろっての食事をほとんど毎日している」41.3%, 「家族そろっての食事をほとんどしていない」11.8%)
- ・朝食を「ほとんど食べない」群で, 家族そろっての食事をほとんどしていない割合が高い。(「家族そろっての食事をほとんど毎日している」20.8%, 「家族そろっての食事をほとんどしていない」33.8%)



(3) 歯みがきの状況

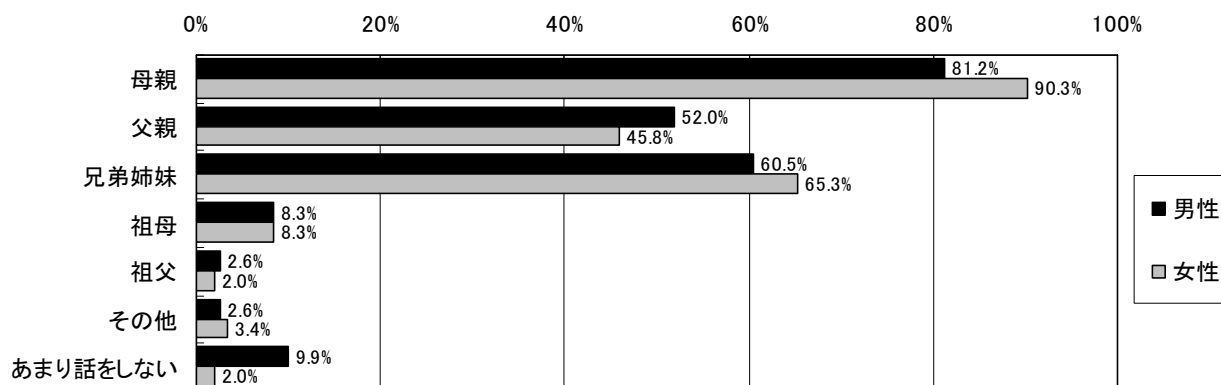
- ・男女共に, 歯をみがくのは「夜寝る前」が最も多く, 次いで, 「朝食後」「朝起きた時」が多い。



4 家族との関係について

○ 家族との会話（複数回答：3人まで）

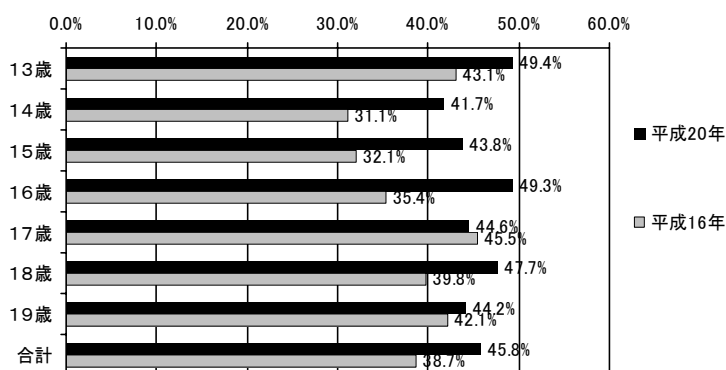
- ・男女共に、「母親」「兄弟姉妹」「父親」が多い。特に「母親」は、女性で90%以上、男性で80%以上を占める。女性で「父親」を会話相手としているものは45.8%であり、平成16年調査の38.7%に比べて増加している。
- ・男性では、「あまり話をしない」が9.9%であり、平成16年調査の4.9%に比べ増加している。特に14歳～17歳では10%以上である。



あまり話をしない（男性）



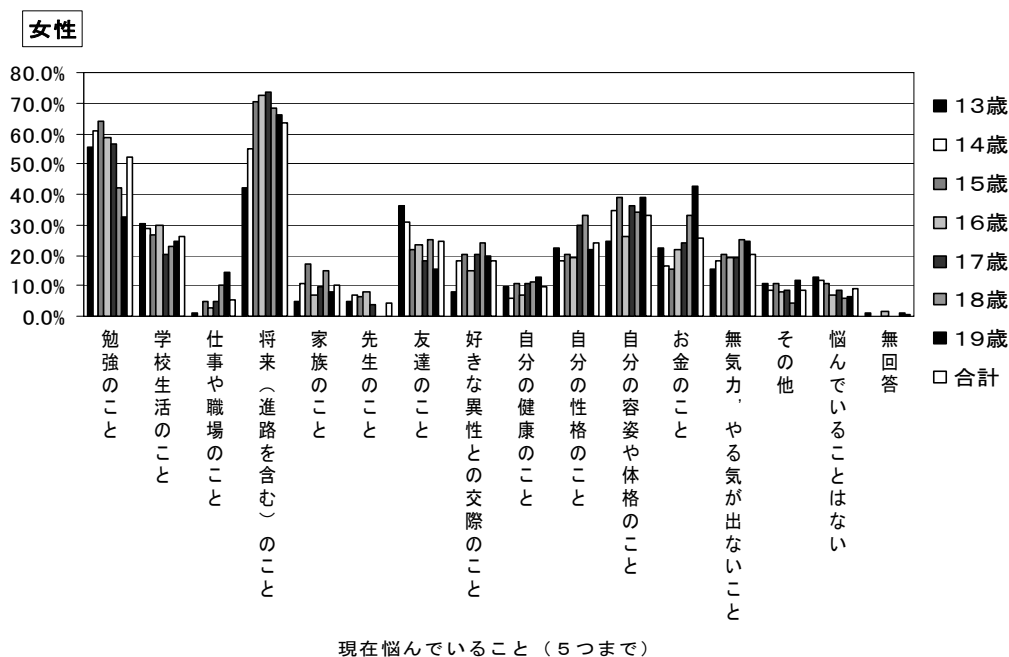
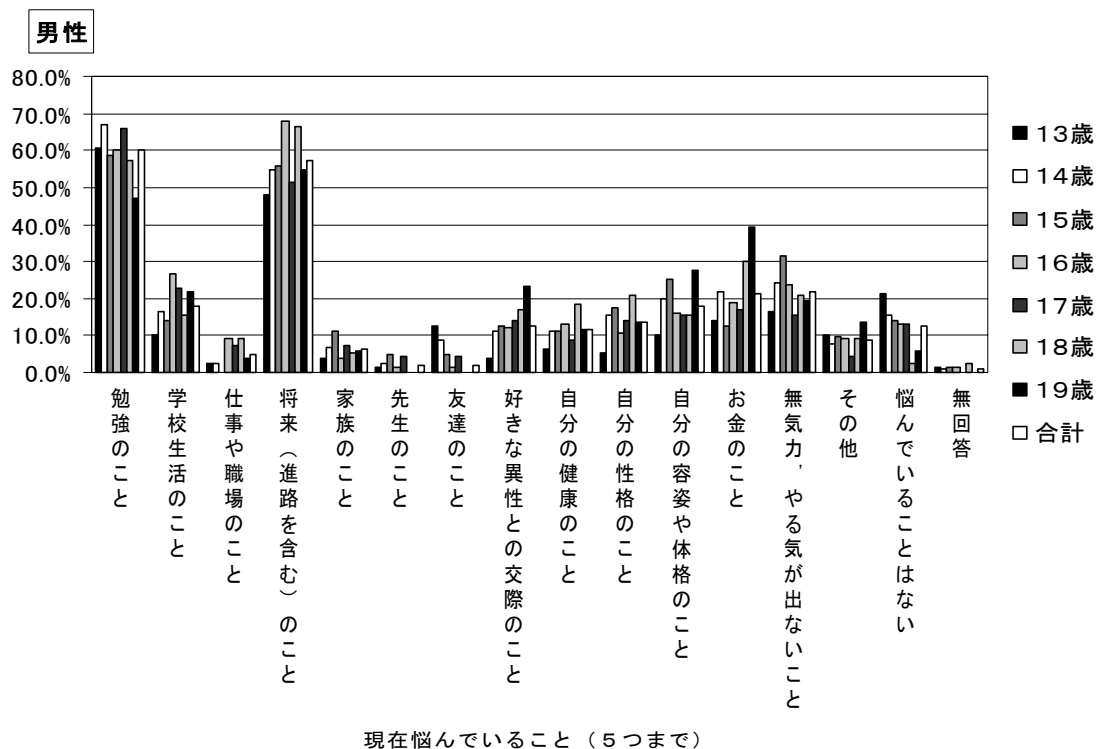
会話相手「父親」（女性）



5 悩みや心の状態について

(1) 現在悩んでいること

- ・男女共に、「勉強」「将来」の悩みが多い。また、女性では「友達のこと」「自分の容姿や性格のこと」の悩みが男性に比べて多く、特に女性13～14歳で「友達のこと」で悩んでいる割合は、男性の約3倍である。

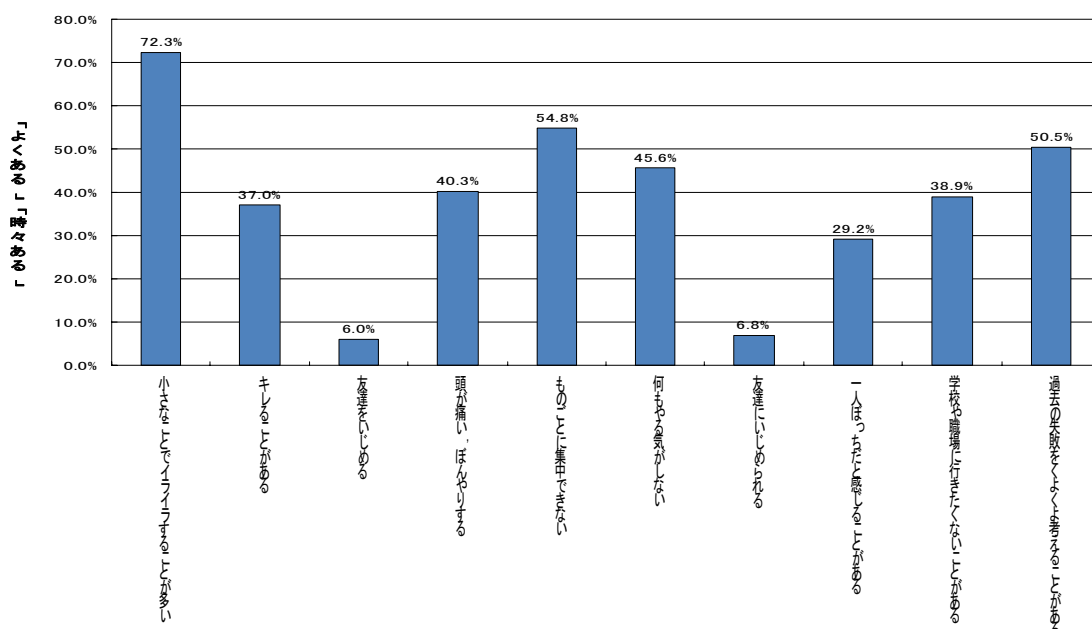


(2) 心の状態

① ふだんの状況

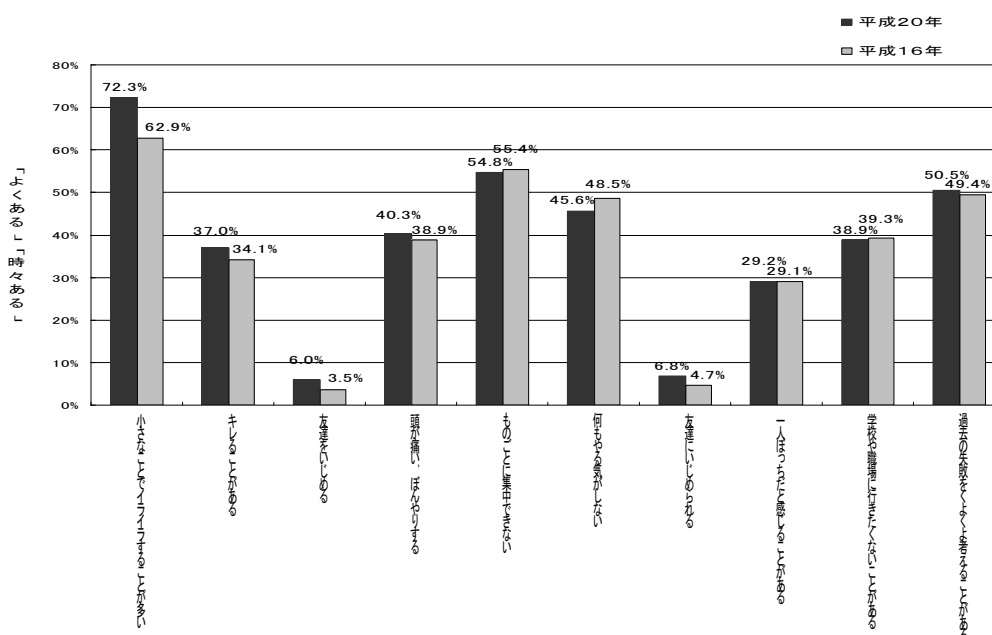
ア 「よくある」、「時々あること」

- ・「小さなことでイライラすることがある」は72.3%である。
- ・「ものごとに集中できない」「過去の失敗をくよくよ考えることがある」は、50%以上である。



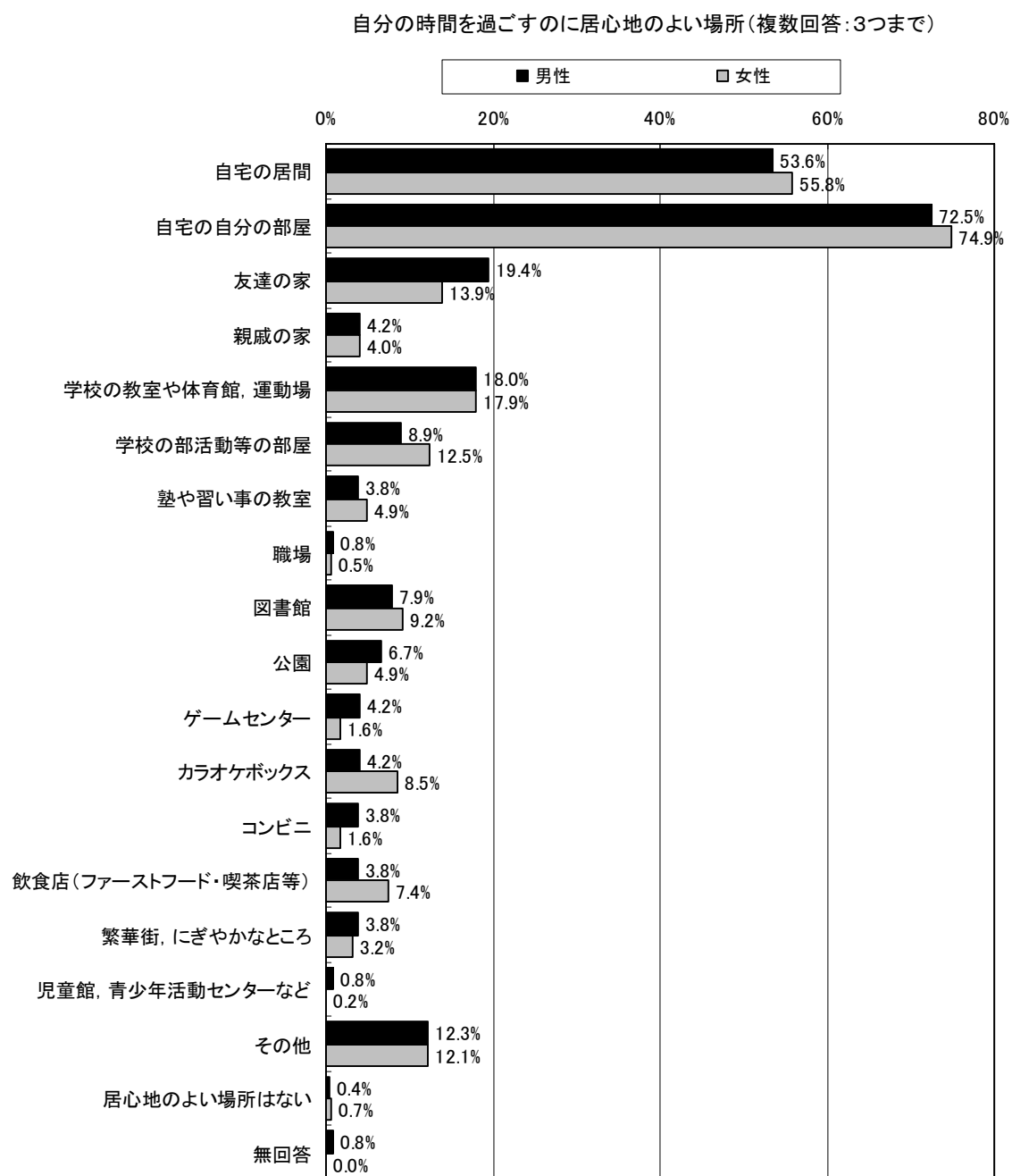
イ 平成16年調査結果との比較

- ・大きな変化はないが、「小さなことでイライラすることがある」「キレることがある」「友達をいじめる」「友達にいじめられる」はやや増加している。



②自分の時間を過ごすのに居心地のよい場所

- ・「自分の部屋」が男女共に70%以上、ついで「自宅の居間」が約55%である。

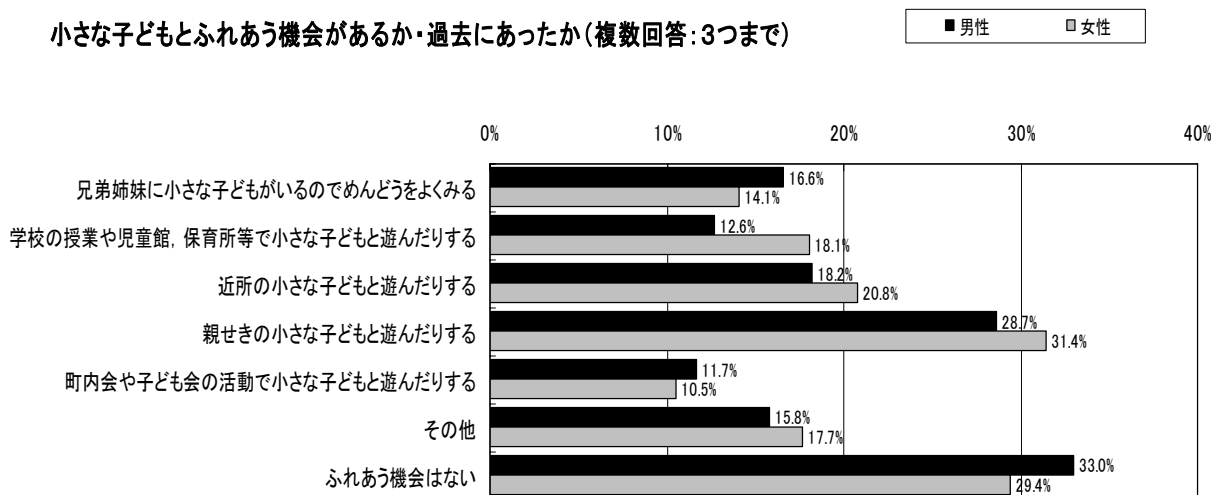


6 小さな子どもとふれ合う機会について

(1) ふれ合う機会

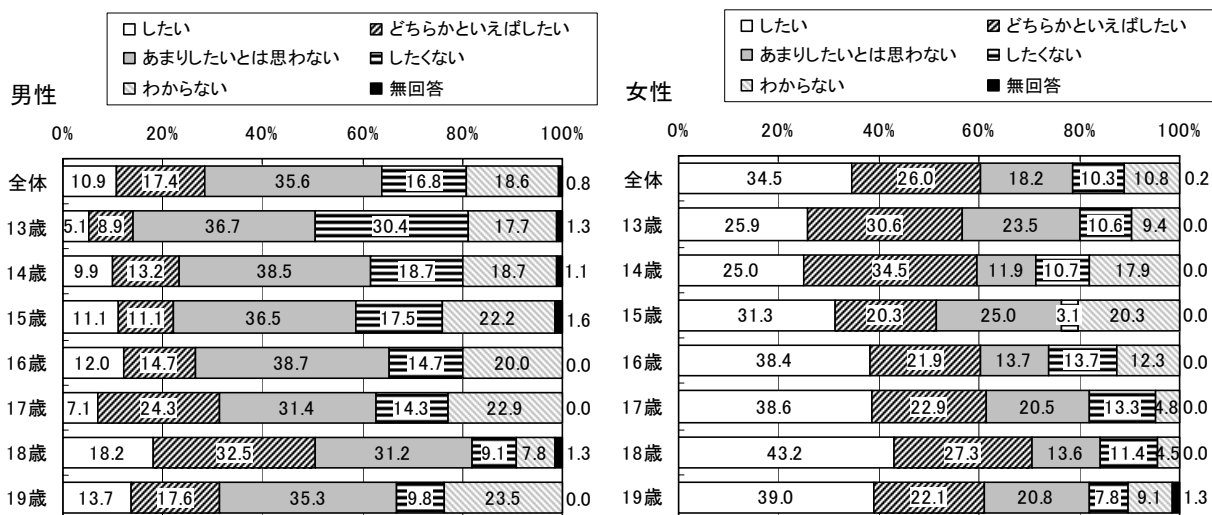
- ・女性のほうが、男性に比べてやや多い。
- ・「ふれ合う機会がない」は、男性 33.0%，女性 29.4%である。

小さな子どもとふれあう機会があるか・過去にあったか(複数回答:3つまで)



(2) 育児体験(ミルクを飲ませる、おむつをかえる、一緒に遊ぶなど)をしたいか

- ・女性のほうが「したい」「どちらかといえばしたい」と答えた人が多い。
- ・「したい」と答える人は、男女共に年齢が高くなるにつれて増加する傾向がある。
- ・平成 16 年調査との比較では、男性の「したい」「どちらかといえばしたい」が減少している。

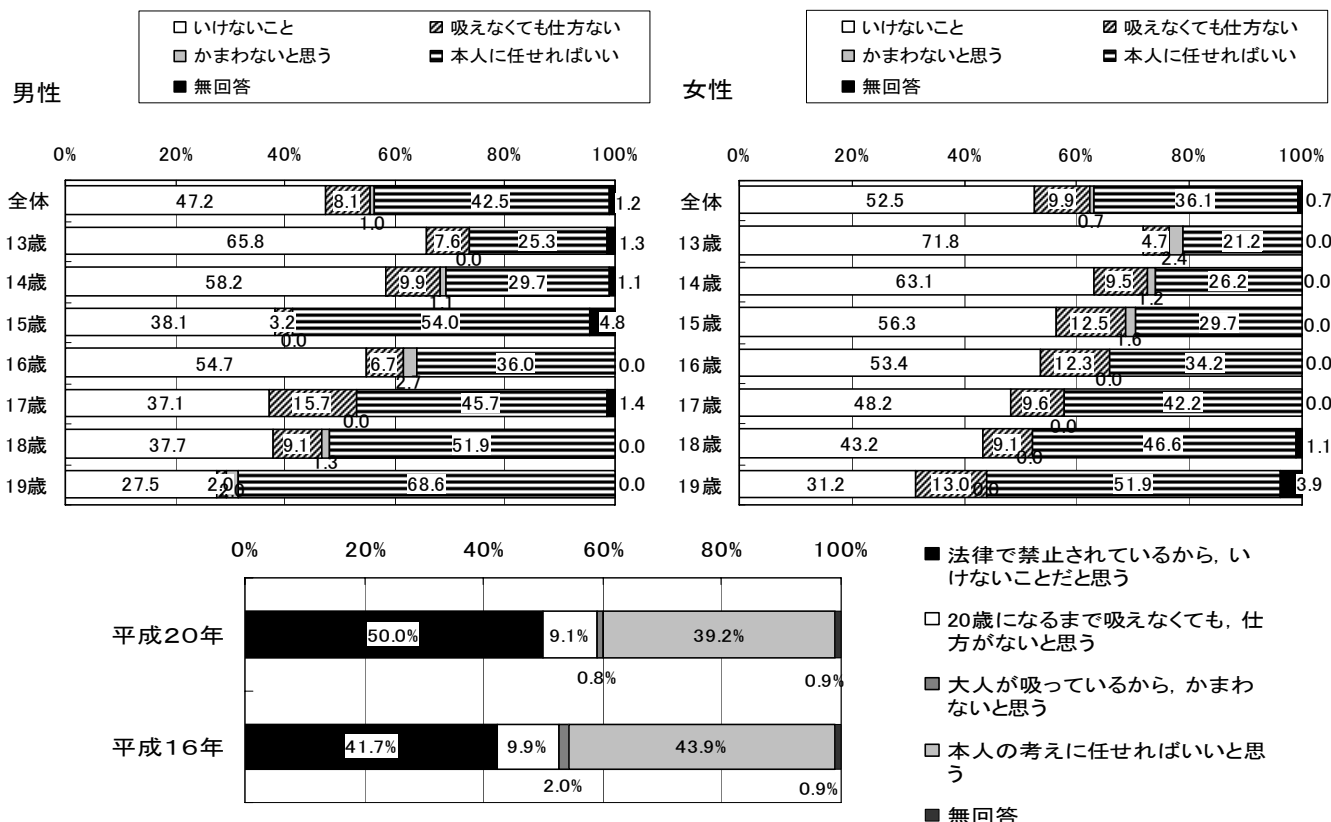


7 喫煙や飲酒について

(1) 喫煙

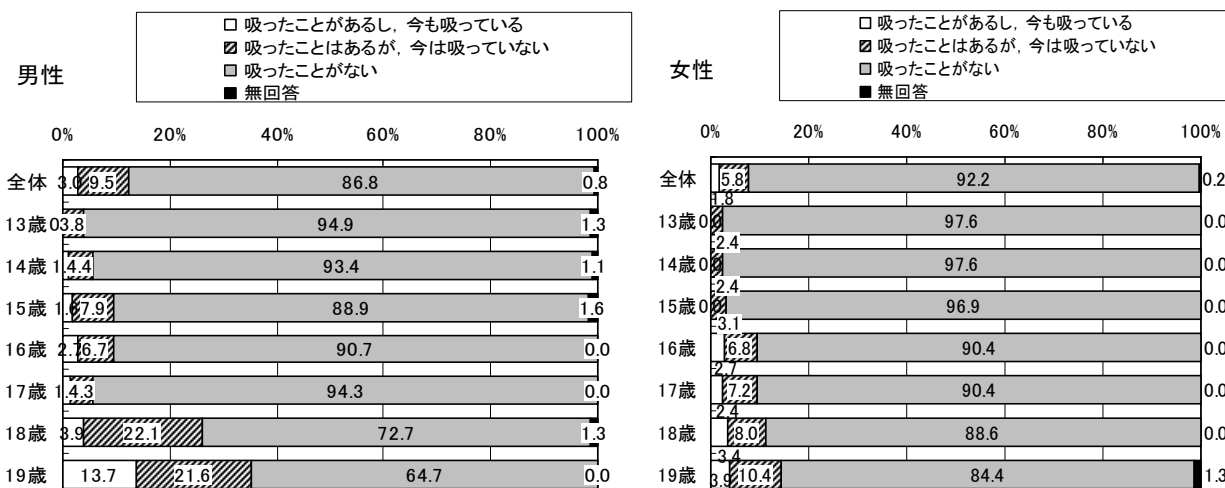
未成年者がたばこを吸うことについて

- ・「法律で禁止されているからいけない」は、年齢が高くなるにつれて減少し、「本人の考えに任せればいい」は、年齢が高くなるにつれて増加している。
- ・平成 16 年調査との比較では、「法律で禁止されているからいけない」は増加し、「本人の考えに任せればいい」が減少している。



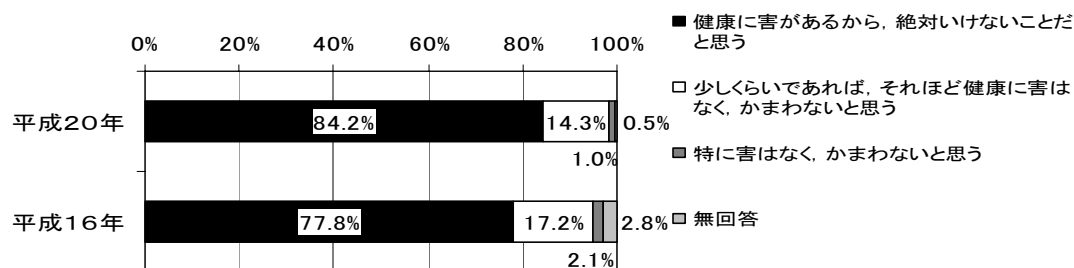
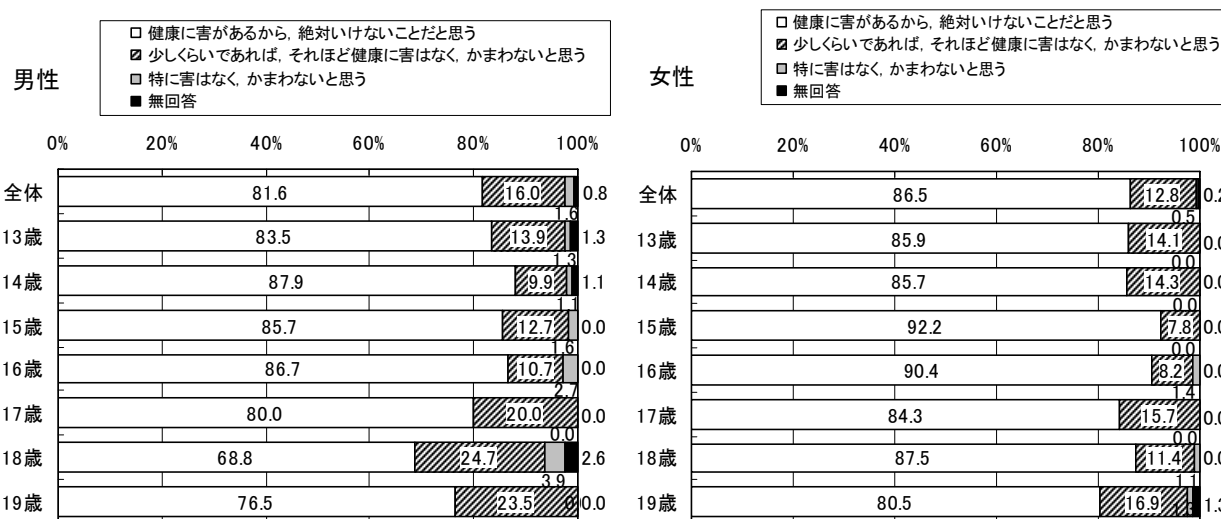
(2) たばこを吸った経験

- ・19歳では、男性の35.3%、女性の14.3%が、「吸ったことがある」と回答している。
- ・男性では、17歳～18歳にかけて増加している。女性では、15歳～16歳にかけて増加している。



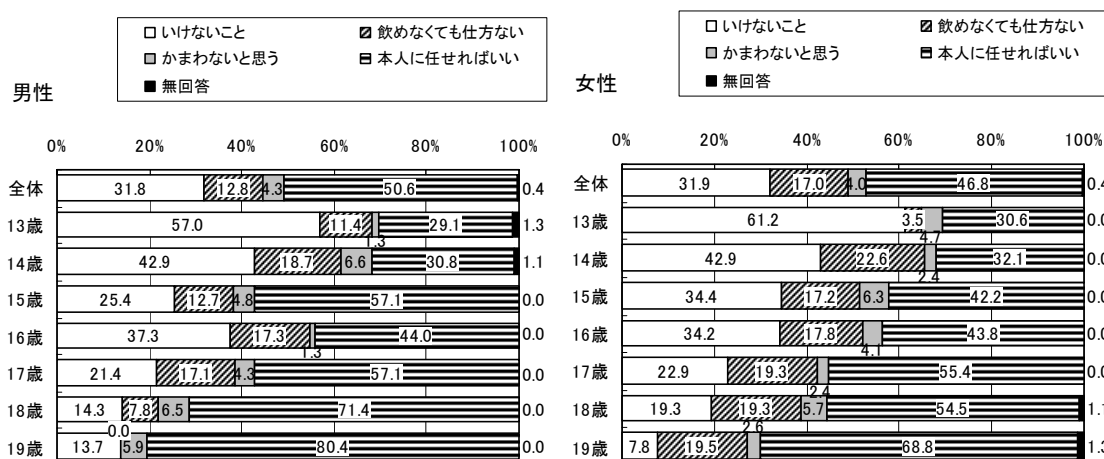
(3) 喫煙が健康に及ぼす影響

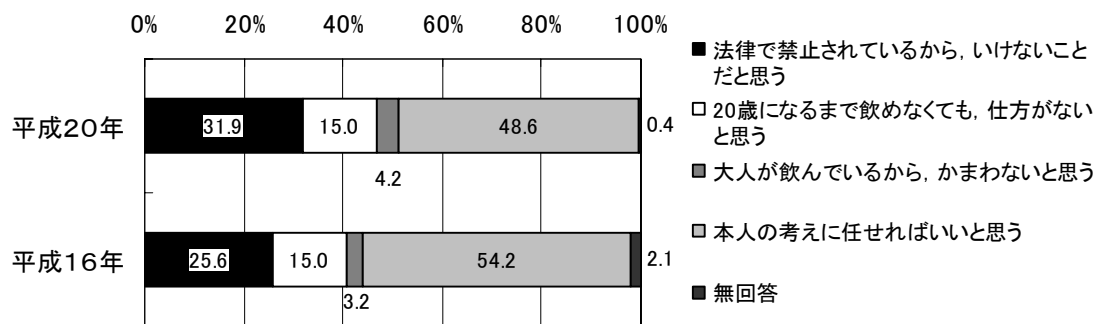
- ・男女共に、80%以上が「健康に害があるから絶対いけないことだと思う」と回答している。
- ・年齢が高くなるにつれて、「少しくらいであればそれほど害はなく、かまわないと思う」が増加している。
- ・平成 16 年調査との比較では、「健康に害があるから絶対いけないことだと思う」は増加している。



(4) 未成年者がお酒を飲むことについて

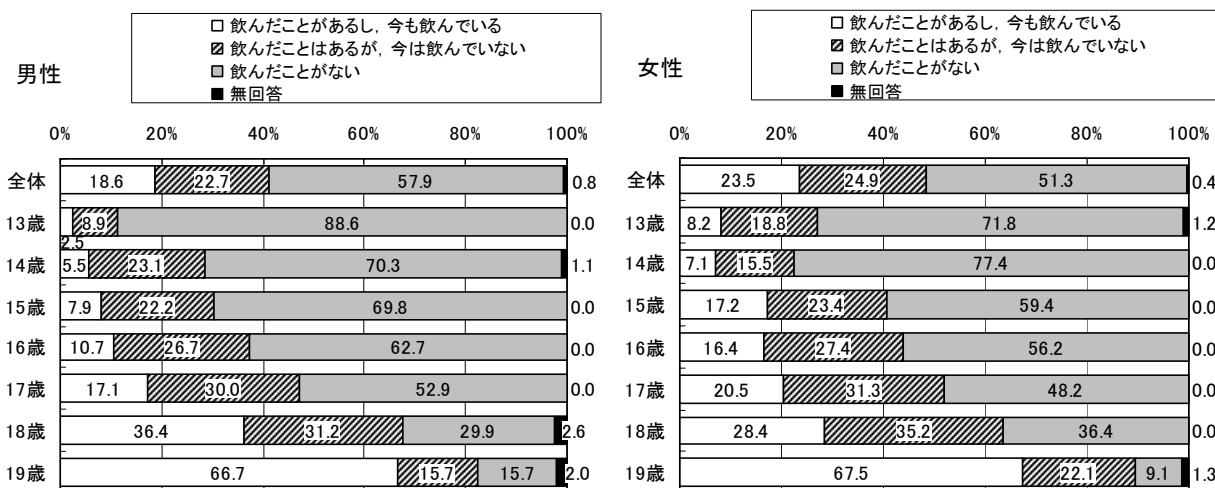
- ・「法律で禁止されているからいけない」は、年齢が高くなるにつれて減少している。
- ・「本人の考えに任せればいい」は、年齢が高くなるにつれて増加している。
- ・平成 16 年調査との比較では、「法律で禁止されているから、いけないことだと思う」が増加している。



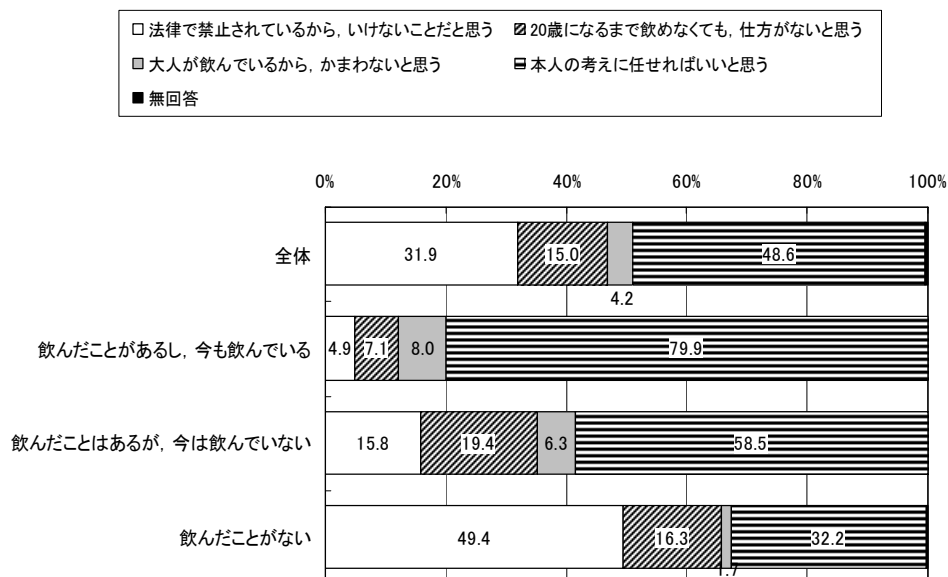


(5) お酒を飲んだことがある

- ・19歳では、「飲んだことがある」が、男性82.4%、女性89.6%を占めている。
- ・また、男女共に約2/3が「今も飲んでいる」と回答している。

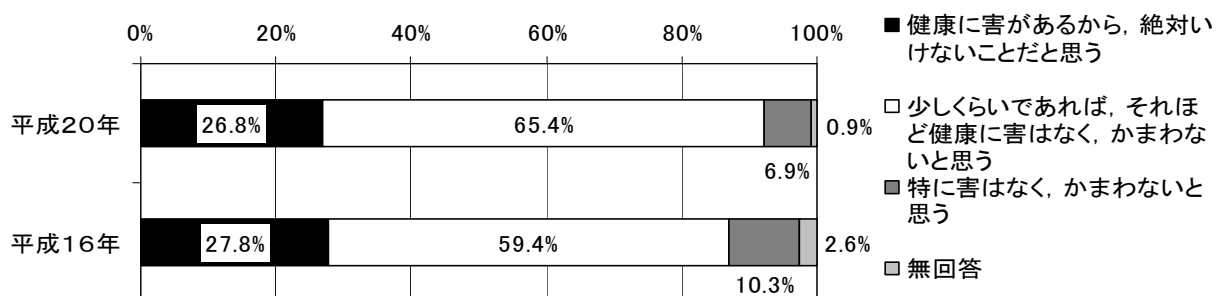
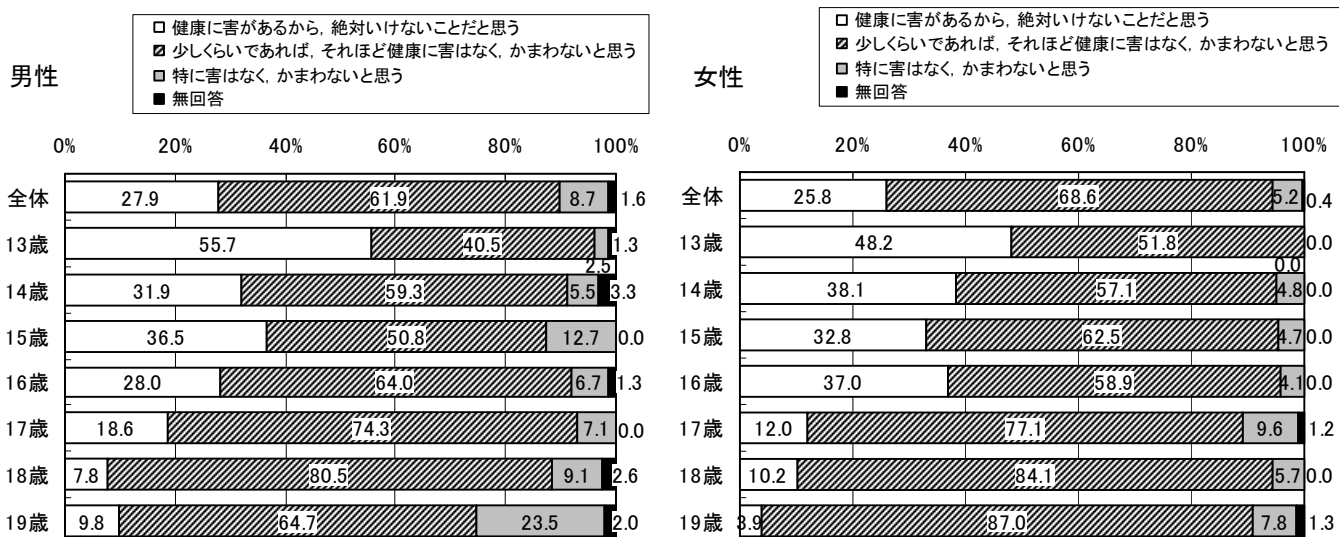


- ・未成年の飲酒について、「今も飲んでいる」人は「本人の考えに任せればいい」が79.9%、「飲んだことがない」人は、「法律で禁止されているから、いけないことだと思う」と「20歳になるまで飲めなくても、仕方がないと思う」を合わせて65.7%である。



(6) 飲酒が健康に及ぼす影響

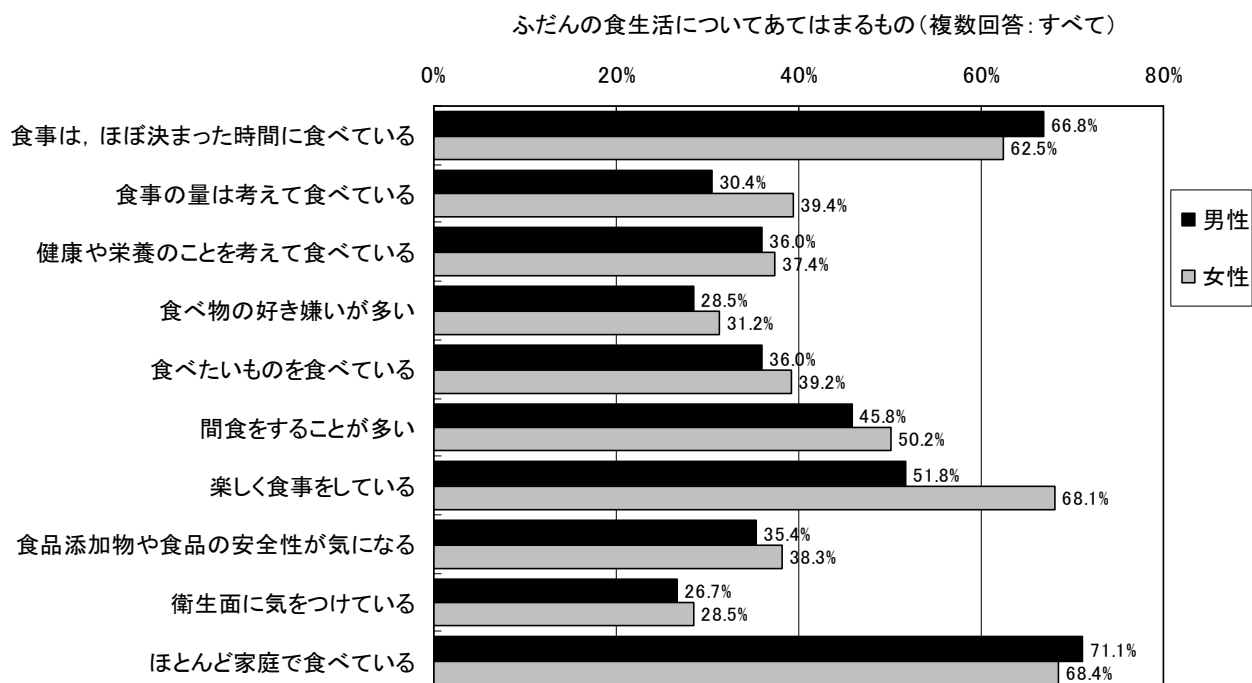
- ・「健康に害があるから絶対いけないことだと思う」は、男性 27.9%，女性 25.8%であり、平成 16 年調査と比較してほぼ同じである。
- ・年齢が高くなるにつれて、「少しくらいであれば、それほど害はなく、かまわないと思う」、「特に害はなく、かまわないと思う」が増加している。



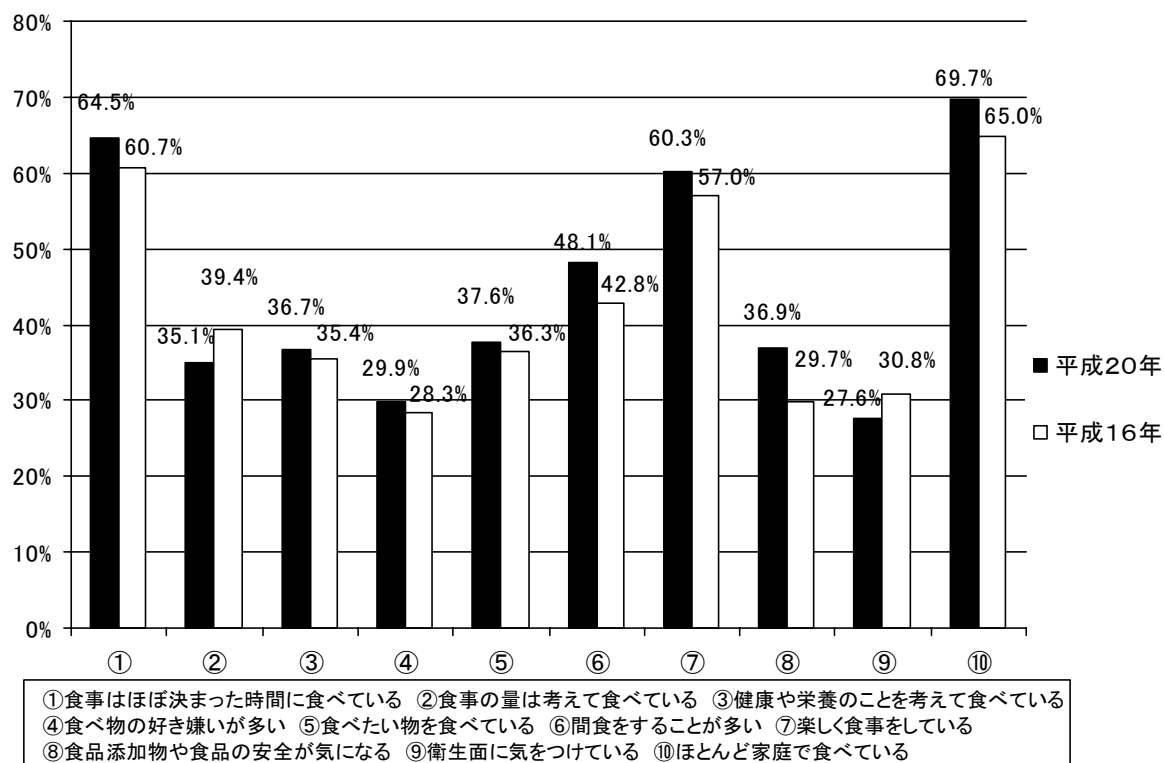
8 食について

○ ふだんの食生活について

- ・女性では、男性と比べて「楽しく食事をしている」人の割合が高い。



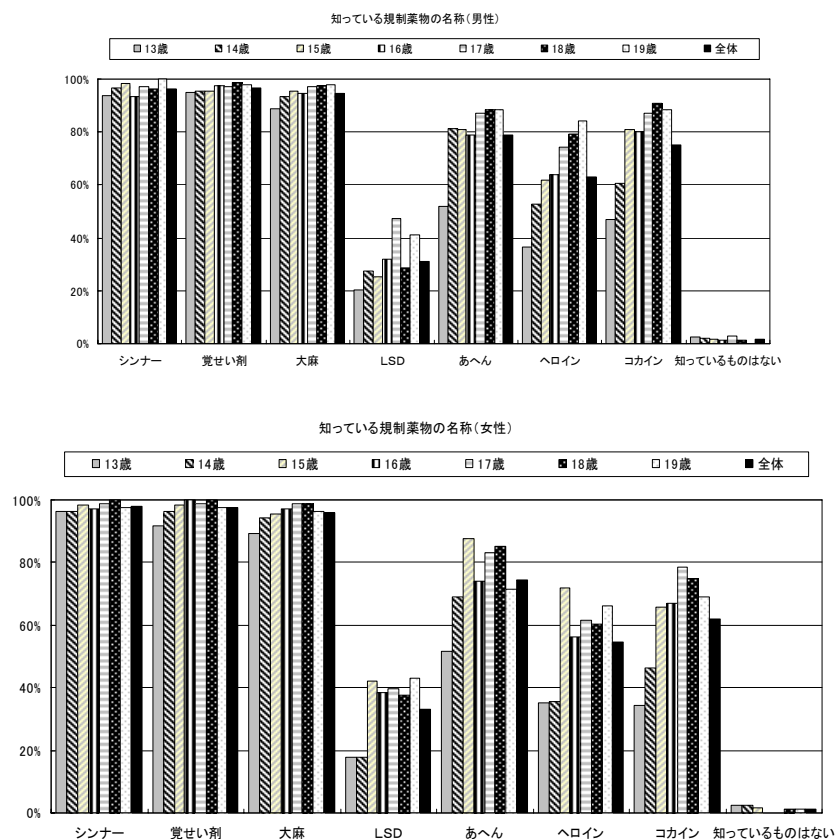
- ・平成16年調査と比較して、「ほとんど家庭で食べている」「ほぼ決まった時間に食べている」「楽しく食事をしている」と答えた人の割合が高くなっている。



9 規制薬物について

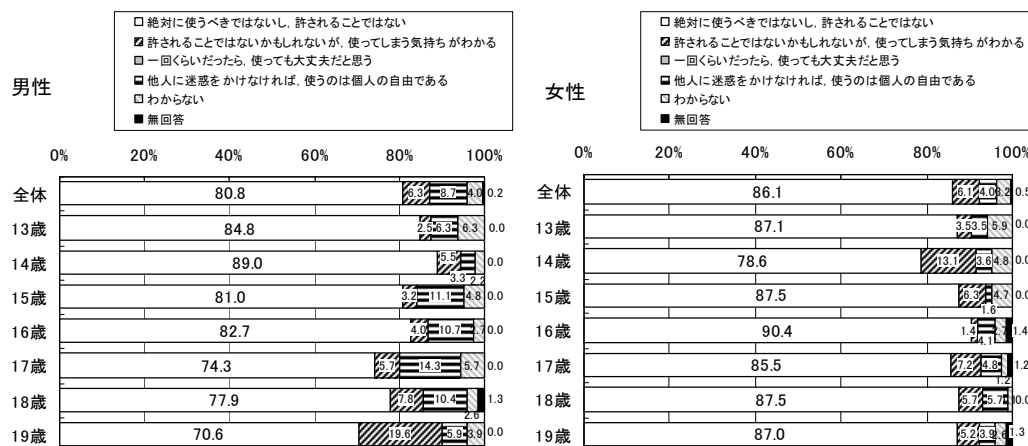
(1) 知っている名称

- ・「シンナー」「覚せい剤」「大麻」は、男女共に90%以上を占める。
- ・「あへん」「ヘロイン」「コカイン」は、低年齢は低い傾向にある。
- ・LSDは、全体で約30%程度である。



(2) 規制薬物を使用することについて

- ・「絶対使うべきではないし、許されることではない」と80%以上が回答している。
- ・「一回くらいだったら、使っても大丈夫だと思う」と答えた人はいなかった。
- ・男性では、年齢が高くなるにつれて「絶対使うべきではないし、許されることではない」が減少し、「許されることではないかもしれないが、使ってしまう気持ちがわかる」が増加している。



10 性に関わることについて

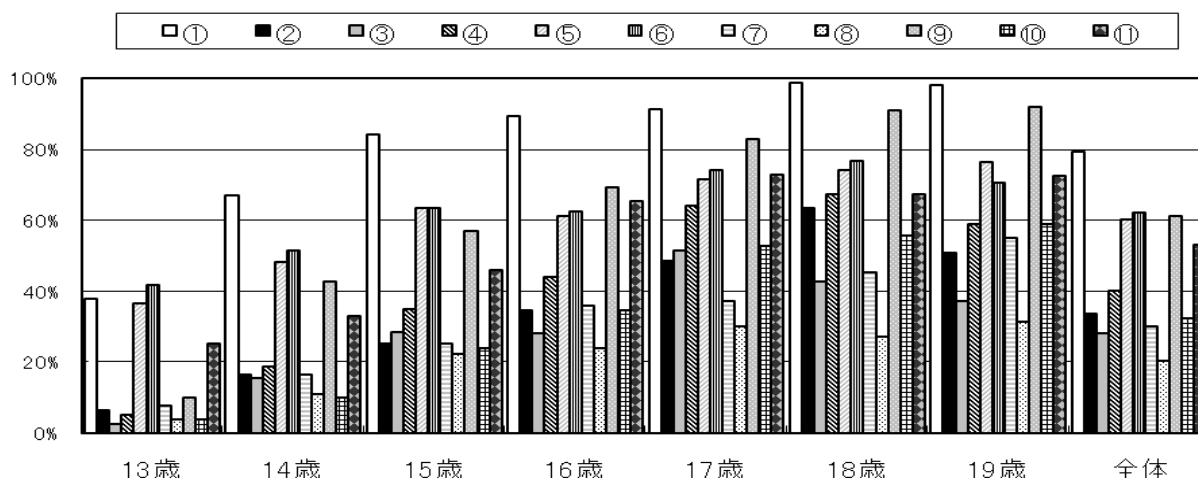
(1) 性感染症のうち知っているもの

- ・男女とも年齢が高くなるにつれて、性感染症に関する知識が増加している。
- ・エイズに関する知識に比べて、他の性感染症に関する知識は乏しい。
- ・平成16年調査と比較して、エイズに関する知識、性感染症予防に関する知識を持つ人の割合がやや低下している。

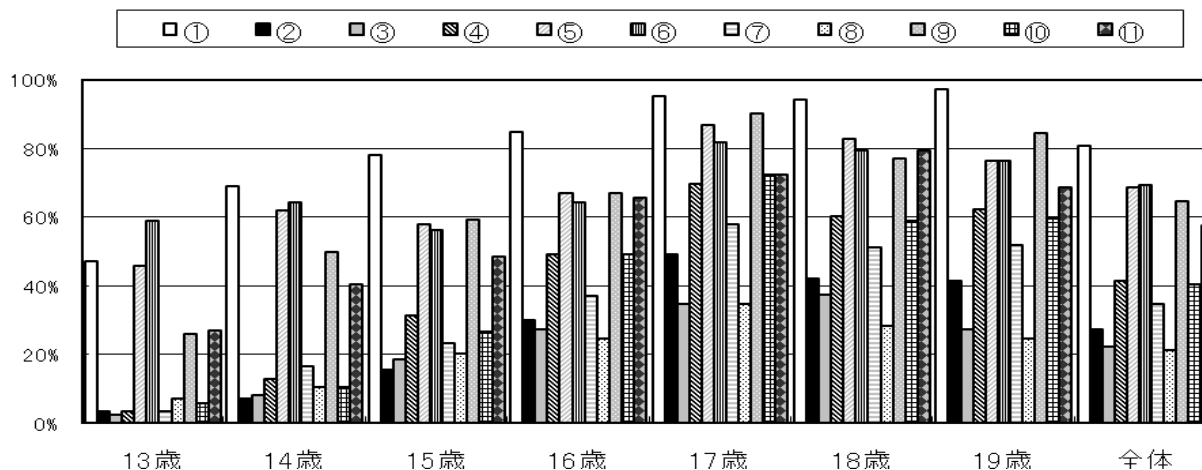
(1) 性感染症のうち、知っているもの（性、年齢別）〔複数回答：すべて〕

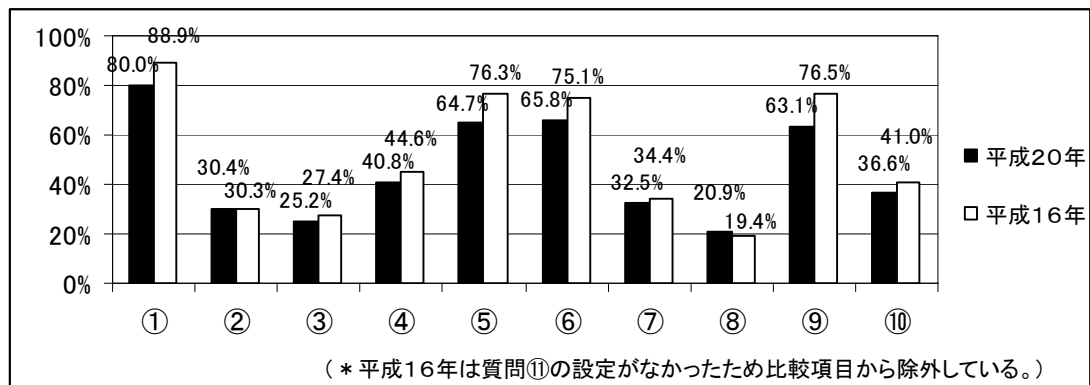
- ① エイズウイルスは性交（セックス）で感染する
- ② 淋病はセックスで感染する
- ③ ヘルペスはセックスで感染する
- ④ クラミジアはセックスで感染する
- ⑤ エイズウイルスは食器の共用では感染しない
- ⑥ エイズウイルスは風呂やプールでは感染しない
- ⑦ 性病には、ほとんど痛みやかゆみなどが無いものもある
- ⑧ 性病にかかっているとエイズに感染しやすくなる
- ⑨ コンドームの使用により性病を予防することができる
- ⑩ ピルの使用では、性病を予防することはできない
- ⑪ エイズ検査は無料で、匿名で、保健所で受けることができる

性感染症の知識（男性）



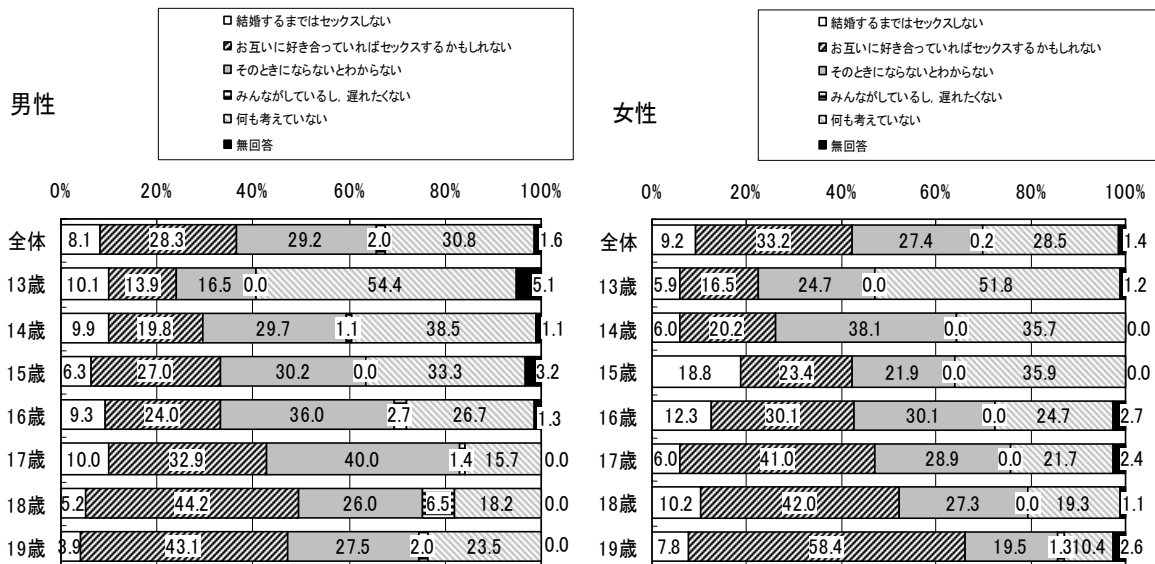
性感染症の知識（女性）





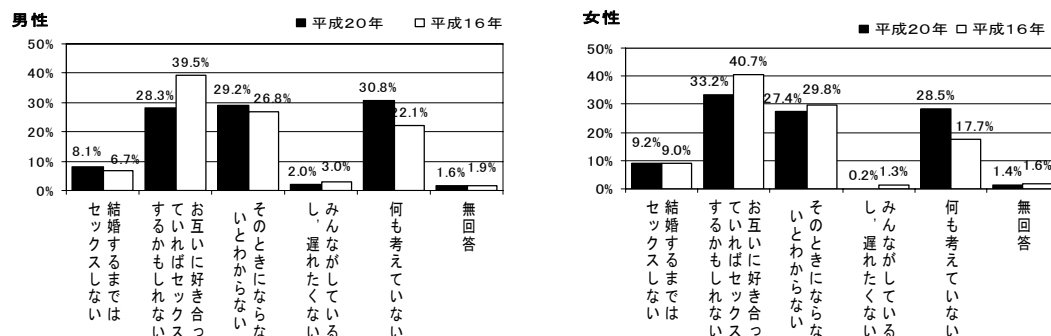
(2) 自分自身がセックスすることをどのように考えているか

- ・13歳では男女共に、半数以上が「何も考えていない」と答えている。
- ・「お互いに好き合っていればセックスするかもしれない」は年齢が高くなるにつれて増加し、男性では18歳以降、女性では17歳以降から、「そのときにならないとわからない」より多くなっている。

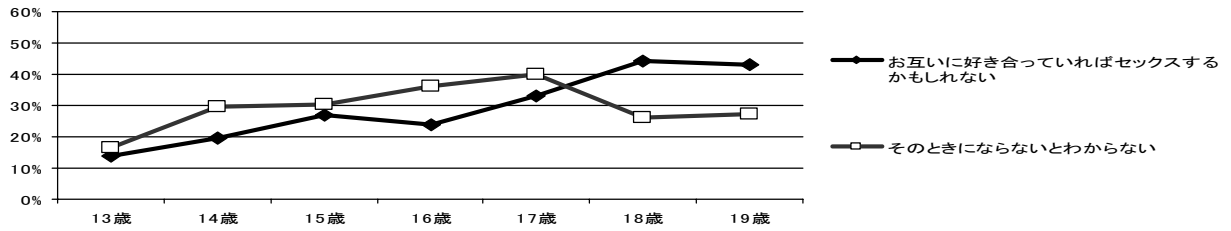


平成16年調査との比較

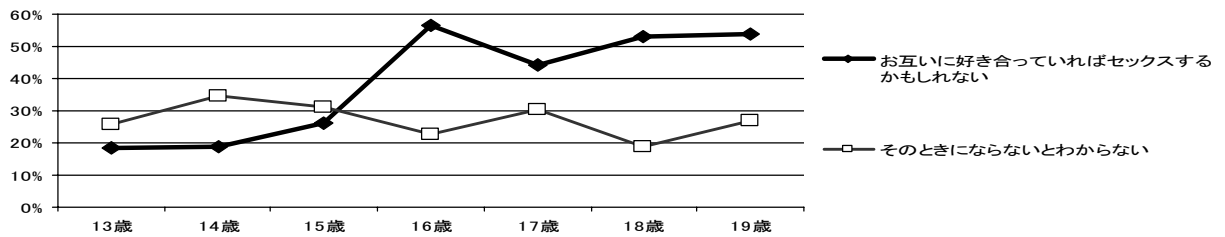
- ・男女共に全体では、「お互いに好き合っていればセックスするかもしれない」の割合は低くなり、「何も考えていない」の割合が高くなっている。
- ・「お互いに好き合っていればセックスするかもしれない」の割合が「そのときにならないとわからない」の割合を上回る年齢は、男女共に高くなっている。



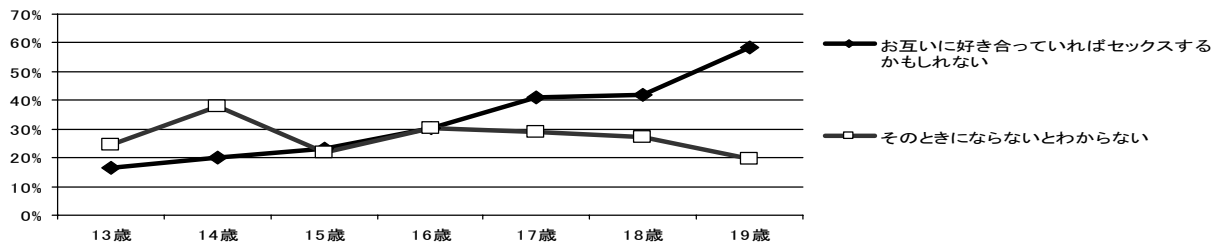
男性 平成20年



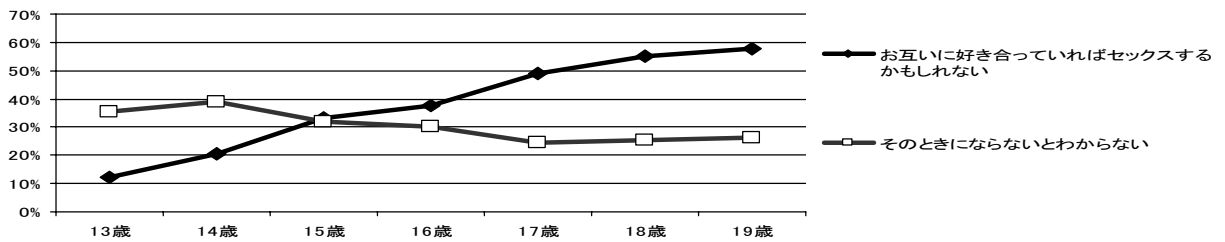
男性 平成16年



女性 平成20年



女性 平成16年



子どもを共に育む京都市民憲章

わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の^{きずな}絆を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切にし、社会の環境づくりを優先します。



平成 19 年 2 月 5 日（育児ニコニコ笑顔の日）制定

3 月 13 日 京都市会が憲章を積極的に推進する決議

京都市思春期に関する意識調査

【結果報告書】

（概要版）

発行年月 平成 21 年 6 月

京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地

電話：075-222-3411 FAX：075-222-3416

http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-5-1-0-0_25.html

京都市印刷物 第 2 1 3 0 5 0

